琉球大学学術リポジトリ

Clinical Features of Human Metapneumovirus Pneumonia in Non-Immunocompromised Patients : An Investigation of Three Long-Term Care Facility Outbreaks

メタデータ	言語:
	出版者: University of the Ryukyus
	公開日: 2021-04-20
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: Karimata, Yosuke, 狩俣, 洋介
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48282

（別紙様式第３号）

論　文　要　旨

論　文　題　目

Clinical Features of Human Metapneumovirus Pneumonia in Non-Immunocompromised Patients: An Investigation of Three Long-Term Care Facility Outbreaks

（非低免疫患者におけるヒトメタニューモウイルス肺炎の臨床的特徴：
３つの長期療養施設でのアウトブレイクにおける検討）

氏名 狩俣洋介 印

ヒトメタニューモウイルス（hMPV）は2001年に分離同定された呼吸器感染症の原因ウイルスである。特に乳幼児や高齢者で下気道感染をおこすことがあるが、成人における肺炎の臨床像報告は少ない。またhMPVの疫学的なアウトブレイク報告も散見されるが、臨床像を解析した報告はほとんどない。本論文は、重症心身障害者および高齢者長期療養施設で発生した3つのケースのhMPVアウトブレイクにおける臨床像、画像所見をレトロスペクティブに検討したものである。

確定診断例（PCR法または迅速抗原検査で陽性）は30例、臨床診断症例は75例であった。基礎疾患は認知症や精神発達遅滞、統合失調症など精神疾患をもつものがほとんどで、易感染性をもつものは少なかった。これら105例のうち、約半分の51例で肺炎を発症した。肺炎群と非肺炎群を比較すると、肺炎群の年齢は有意に高かった（中央値：58 vs 44, $p<0.001$）。理学所見では高熱や喘鳴が特徴的であったが、肺

炎群で喘鳴の聴取頻度（43％ vs 9％, p<0.0001）や呼吸不全の頻度（31％ vs 4％, p< 0.0002）が高かった。血液検査では、白血球数、CRP、CPK、AST、ALTの上昇が、いずれも肺炎群で多くみられた（p<0.05）。単純X線写真では、肺門部から放射状に広がる気管支壁肥厚を伴った気管支肺炎のパターンをとるのが特徴的であった。CTにおいてもこの特徴が確認され、さらに陰影の分布が両側性（88％）、複数肺葉（100％）、肺門部優位（96％）であるものが多かった。肺炎による死亡例はなかった。

hMPV感染症の血液検査所見について検討した報告は少なく、特にCPK上昇は本論文で示された新たな知見である。レジオネラやマイコプラズマ、インフルエンザウイルスなど、肺炎の際にCPK上昇を来す病原微生物は限られており、血清CPK値測定は鑑別を絞る一助として有用だが、hMPVもその鑑別の一つとなる。また本論文で示された画像所見は、気道線毛上皮を感染巣とするhMPVの感染様式と一致し

た特徴的な所見であり、これも新たな知見である。過去にも少ない症例数の画像所見についてのケーススタディが数例あり、小葉中心性陰影、すりガラス様陰影、間質影が主な所見であり、本論文の特徴とは異なる。しかし、過去の報告はいずれも幹細胞移植後や担癌患者におけるものであり、特殊な低免疫状態にあるという点で本論文とは患者背景に違いがある。

hMPV は一般的な呼吸器ウイルスであり、これまで起炎病原体不明とされてきた肺炎の流行には、hMPV 肺炎が潜在していた可能性がある。本論文において示された新たな知見により、早期に hMPV 感染症を疑い確定診断をつけることが、適切な感染拡大対策につながると考える。